

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 28 日現在

機関番号：64302

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：24720312

研究課題名(和文) 海域交流史料としての仏教文献の研究

研究課題名(英文) Research on Buddhist Documents as Historical Materials about Maritime Exchange

研究代表者

榎本 渉 (ENOMOTO, Wataru)

国際日本文化研究センター・研究部・准教授

研究者番号：60361630

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果としては、まず第一に、平成24年度に、日宋・日元仏教交流研究の足掛かりとなる僧伝史料の網羅的な収集とその書誌的な考察がある。これについては平成24年度に『南宋・元代日中渡航僧伝記集成 附江戸時代における僧伝集積過程の研究』を上梓することができた。第二には、平成26年度に、国際日本文化研究センターで「中世禅籍テキストデータベース」の公開を行なった。第三には、日中仏教交流の現場となった日本・中国の史跡の踏査を行ない、その地理的環境や考古遺物など、文献に限定されない「資料」の収集に努めた。第四には、日中仏教交流との比較のために、中央アジア・東南アジアの仏教交流史跡の踏査を行なった。

研究成果の概要(英文)：The result of this research is classified into 4 topics as follows. 1)The comprehensive collection of the monk biographies and the bibliographic study on them as the key of the research on the Buddhism exchange between Japan and Song/Yuan China, which resulted in publication of Collected Biographies of Buddhist Priests Sailing Between Japan and China in the Southern Song and Yuan Eras with a Study of the Buddhist Priest Biography Collection Process in Edo Japan (Bensey Publishing Inc., 2013); 2)Opening of Medieval Zen Texts Database in the website of International Research Center for Japanese Studies in 2014; 3)Fieldwork in the historical remains in both Japan and China where Buddhism exchanges occurred aiming at obtaining the "materials" including non-literal one, such as its geographical features or archaeological relics; 4)Fieldwork in the historical remains in Central Asia and Southeast Asia concerning the Buddhism exchange to compare with one in Japan or China.

研究分野：日本中世史

キーワード：対外関係 文化交流 仏教 禅宗 中世史 中国 アジア

### 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、『僧侶と海商たちの東シナ海』(講談社選書メチエ、2010年)で、僧侶の往来のあり方がその時代の日中交流に規定されていること、言い換えれば僧侶の往来状況を探ることで日中関係の特質が明らかになることを提言していた。平成17~21年度科学研究費補助金特定領域研究「11~16世紀の東アジア海域と寧波 博多関係」(研究代表者:中島楽章)においてはこうした関心から、南宋・元代中国に渡航した僧侶の伝記を網羅的に収集し、その一覧表の草稿を発表した。しかし僧伝は後世の編纂物である以上、史料批判は必須である。そのため研究代表者は一覧表制作の傍らで、各僧伝の書誌的な検討が必須であることを認識し、僧伝がどのような経緯で集積され現在に伝えられたのかの研究を始めていた。さらに言うまでもないことだが、僧侶の関係史料は僧伝だけでなく、むしろこれよりも史料的価値の高い墨蹟・日記・語録・詩文集なども存在する。これらの書誌的検討も十分に行なわれておらず、またそこから明らかになるはずの各僧侶の留学経路についても、なお未解決の問題は多かった。

### 2. 研究の目的

本研究では以上の関心に基づき、僧伝も含む仏教史料を日中関係史の史料として利用できる環境を整えるために、関係資料の古版本・写本調査を行ない、その成果を公開すること、およびそこから判明する日中交流の様相を明らかにすることを目的とした。また日中仏教交流の様相を他地域の交流と比較することにより、その特色を明らかにすることも目的とした。具体的には中朝間と日中間の仏教交流の比較検討を想定していた。

### 3. 研究の方法

(1)仏教史料の調査については、大学・図書館での調査の他、可能な場合は寺院所蔵資料の調査も行なう計画だった。ただし寺院での調査は諸事情で困難になったものも多く、実現したのは京都府宇治萬福寺・佐賀県水上万寿寺・愛知県名古屋真福寺での調査に留まり、多くは公共図書館や大学の所蔵史料の調査、または全国の博物館での展示品の調査を中心とすることになった。また文献資料から判明する日中仏教交流の関係史跡について、踏査を日本・中国で積極的に行なった。この作業は、交流の現場が港・寺院跡などどのような関係にあったのかを確認するために重要なものである。特に中国山東省においては、現地の地名の歴史的変遷を徹底的に調べ、視認範囲など現地での景観を確認することにより、入唐僧円仁の移動経路について新たな見通しを立てることができるようになった。(2)日中仏教交流との比較のための他地域との交流の研究について、当初から中韓関係を念頭に置いており、その基礎作業として史料

収集を行なった。本研究ではさらにこれに加えて、「東アジア」に限定されないアジア規模での仏教交流が注目されている学会の現状を踏まえ、陸上交流のサンプルとして内陸アジア(敦煌・トルファン・ジムサル)、海上交流のサンプルとしてジャワ島の史跡や博物館での調査を行なった。

### 4. 研究成果

(1)史料調査や現地踏査の成果は、拙著『南宋・元代日中渡航僧伝記集成 附江戸時代における僧伝集積過程の研究』やその他の論考に反映されている。他に佐賀県万寿寺所蔵史料については、現在発表準備中の論考で扱われる予定となっている。また本研究の成果公開の一環として、国際日本文化研究センターのウェブサイト上で、「中世禅籍テキストデータベース」を公開した。現在は『空華老師日用工夫略集』のデータが公開されているが、他にも未翻刻禅籍のデータ公開を予定している。現地踏査については、九州や畿内に残る中世石造物に日中仏教交流の痕跡が見出されることが近年の研究で明らかにされつつあるが、研究代表者も福岡県の山岳寺院跡の調査などでこの点を強く認識するに至り、平成28年度に研究分担者として申請し採択された基盤研究(A)「石造物研究による中世日本文化・技術形成過程の再検討 - 東アジア交流史の視点から -」(研究代表者:市村高男)でも、引き続き考察を続けていく予定である。

(2)日中交流と他地域の交流の比較については、中朝交流については現在も成果公開には至っていないが、いずれ論文などの形で発表する予定である。内陸アジア・東南アジアに関しては、各地域の交流に関する専論という形ではなく、東アジアとの比較対象として扱い、そこからは東アジアにおける交流の特質を明らかにする論考を用意している。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計9件)

榎本涉、中世東シナ海海域における国際商人、学際、査読無、1号、2016、3-13  
DOI:なし

[http://www.isr.or.jp/TokeiKen/pdf/gakusai/1\\_02.pdf](http://www.isr.or.jp/TokeiKen/pdf/gakusai/1_02.pdf)

ENOMOTO Wataru、Trade Administrated by Maritime Trade Office (Shibosi) in Song China and by Dazaifu in Heian Japan、Memories of the Research Department of the Toyo Bunko、査読無、72号、2015、27-56  
DOI:なし

[http://www.i-repository.net/il/meta\\_pub/G0000171kenkyu](http://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000171kenkyu) (後日公開予定)

榎本涉、檀上寛著『明代海禁 = 朝貢シス

テムと華夷秩序』、日本史研究、査読無、629号、2015、49-57

DOI:なし

榎本涉、書評 渡邊誠著『平安時代貿易管理制度史の研究』、社会経済史学、査読無、79-3号、2013、135-137

DOI:なし

榎本涉、平安王朝と中国医学 一二世紀を中心に、東京大学日本史学研究室紀要、査読有、別冊中世政治社会史論叢、2013、3-15

DOI:なし

榎本涉、アジアの中の建長寺 鎌倉時代の住持中の渡来僧の位置、禅文化、査読無、228号、2013、25-33

DOI:なし

榎本涉、長崎皓臺寺と福州鼓山 『日域洞上諸祖伝』撰述の背景、駒澤大学禅研究所年報、査読無、24号、2012、69-97

DOI:なし

榎本涉、僧伝出版から見た清初仏教と江戸仏教、歴史と地理、査読無、656号、2012、1-14

DOI:なし

ENOMOTO Wataru、The Current State of Research on the History of Japan's Contacts with Other Countries in the First Half of the Medieval Period、Acta Asiantica:Bulletin of the Institute of Eastern Culture、査読無、103号、2012、95-120

DOI:なし

#### 〔学会発表〕(計7件)

榎本涉、平安末期の天台僧における中国仏教への関心 栄西入宋の前提、国際シンポジウム「日本の中国文化に対する撰取と創造」、2015年11月8日、浙江工商大学(中国・杭州市)

榎本涉、10世紀中国浙江省の新羅坊、海洋史ワークショップ「東アジア海洋史の再構成のための始まり:9世紀から13世紀まで」、2015年8月27日、ソウル市東北アジア歴史財団(韓国・ソウル市)

榎本涉、13世紀の東アジア情勢と高麗・大越・日本、2013年11月14日、ベトナム社会科学院(ベトナム・ハノイ市)

榎本涉、東シナ海航路を守る神 海域で生成・伝播する航海信仰、都市文化研究セミナー、2013年3月9日、大阪歴史博物館(大阪府・大阪市)

榎本涉、平安末期日本对中国医学的接受、「中国的日本認識・日本の中国認識」学術討論会、2013年2月28日、復旦大学(中国・上海市)

榎本涉、建長寺27世嵩山居中とその入元、鎌倉禅研究会、2012年11月1日、建長寺(神奈川県・鎌倉市)

榎本涉、李相培報告へのコメント、韓国国際学術大会“朝鮮時代の韓国と日本 共通点と相違点、交流と葛藤の歴史”(原韓国語)2012年5月18日、江原大学校(韓国・春川市)

#### 〔図書〕(計11件)

榎本涉他編、森克己著、勉誠出版、古代～近代日本の対外交流、2015、485

村井章介主編、榎本涉他著、勉誠出版、日明関係史研究入門 アジアのなかの遣明船、2015、528

復旦大学文史研究院編、榎本涉他著、中華書局、中国的日本認識 日本の中国認識、2015、165

倉本一宏編、榎本涉他著、思文閣出版、日記・古記録の世界、2015、771

白幡洋三郎編、榎本涉他著、思文閣出版、『作庭記』と日本の庭園、2014、356

大津透他編、榎本涉他著、岩波書店、岩波講座日本歴史7巻中世2、2014、318

静永健編、榎本涉他著、東京大学出版会、東アジア海域に漕ぎだす6海がはぐくむ日本文化、東京大学出版会、2014、255

村井章介編、榎本涉他著、勉誠出版、東アジアのなかの建長寺、2014、476

範金民・胡阿祥主編、榎本涉他著、江南地域文化的歴史演進文集、三聯書店、2013、674

榎本涉、勉誠出版、南宋・元代日中渡航僧伝記集成 附江戸時代における僧伝集積過程の研究、2013、543

林立群主編、榎本涉他著、浙江大学出版社、跨越海洋 “海上絲綢之路与世界文明進程” 国際学術論壇文選、2012、381

#### 〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

#### 〔その他〕

ホームページ等

<http://research.nichibun.ac.jp/ja/resea>

rcher/staff/s068/index.html (国際日本文化研究センター研究者一覧)  
<http://db.nichibun.ac.jp/ja/category/zenseki.html> (国際日本文化研究センター中世禅籍テキストデータベース)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

榎本 渉 (ENOMOTO, Wataru)  
国際日本文化研究センター・研究部・准教授  
研究者番号：60361630

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：